

セントラル愛知交響楽団

ハイドンの ロンドン精神

Vol.2



指揮
角田鋼亮 (当団常任指揮者)

© Hikaru Hoshi

ゴセック
交響曲ニ長調Op.12No.1

ハイドン
交響曲第95番ハ短調

ハイドン
交響曲第96番ニ長調「奇蹟」

やむを得ない事情で公演の中止または演奏曲目・曲順が変更になる場合がございますのでご了承ください。

2021年12月10日(金) 18:45開演
(18:00開場)

ザコンサートホール

名古屋・伏見・電気文化会館

☎052-204-1133 名古屋市中区栄2-2-5 (地下鉄「伏見」駅より徒歩2分)



入場料(全指定席) 一般 4,000円 / 学生 1,000円

※未就学児入場不可 ※学生席は座席指定不可 [当団事務局のみの取扱い]

発売日 会員先行10/4、5 一般10/6

※当団会員様は会員先行発売日のご購入・会員割引価格でのご購入が可能です。[当団事務局でのみ受付]

プレイガイド ●愛知芸術文化センタープレイガイド ☎052-972-0430

●チケットぴあ <https://t.pia.jp/> (WEB受付のみ)

[イベント] 12/9(木) 10:30~11:20(公開講座) 12:00~13:00(公開リハーサル) 会場 / 名古屋文理大学文化フォーラム ☎0587-24-5111 入場無料・先着200名

お申込み
お問合せ **セントラル愛知交響楽団** ☎052-581-3851 ホームページからもお申込みいただけます。
(10:00~17:30/土日祝休) <http://www.caso.jp>



主催 / 公益社団法人セントラル愛知交響楽団 後援 / 愛知県教育委員会・名古屋市教育委員会 助成 / 公益財団法人アフィニス文化財団

ハイドンの ロンドン精神

Vol.2

2年ぶり2度目の「ハイドンのロンドン精神」。その開催を祝うように演奏されるのは、ハイドンの2歳年下のゴセックの交響曲。彼は指揮者として、演奏会で積極的にハイドンの作品を取り上げ、その人気の立役者となりました。作曲家としては、50曲近くもの交響曲を書き、フランス交響曲の父とも呼ばれています。今回演奏する作品番号12の第1番の両端楽章は明るく華やかで、嬉遊曲の雰囲気。その間に挟まれた第2楽章は色々な和音の中を彷徨うようで、唯一無二の世界が広がります。

さて、ハイドンからは、あまり実演で聴くことのできない2曲を。貴重な機会になる事請け合いです。第95番はザロモン・セットの中で唯一短調。とはいえ、深刻な雰囲気なのはごく一部分のみかもしれません。この意外性も策士ハイドンならではの。凝りに凝った第2楽章や、おそらくモーツァルトのジュピター交響曲に影響を受けた第4楽章も注目です。第96番は斬新さと楽しい仕掛けがいっぱいです。個人的には、スコアを読んでいてザロモン・セットの中で一番面白い作品に感じます。コロナで鬱々とした時が流れましたが、ハイドンの漫談に耳を傾け、心で笑って元気になりたいものです。演奏会全体がクラシックの「寄席」となりますように。

セントラル愛知交響楽団常任指揮者 角田 鋼亮

[指揮] 角田鋼亮 Kosuke Tsunoda

東京芸術大学大学院指揮科修士課程並びにベルリン音楽大学国家演奏家資格課程修了。2002年、安宅賞受賞。2006年、第3回ドイツ全音楽大学・指揮コンクールで最高位を獲得。2008年、カラヤン生誕100周年記念の第4回ドイツ全音楽大学指揮コンクール第2位入賞。2010年、第3回マーラー指揮コンクールにおいて最終の6人に残った。これまでに、ベルリン・コンツェルトハウス管弦楽団、ブランデンブルグ交響楽団、上海歌劇院管弦楽団、札幌交響楽団、山形交響楽団、仙台フィルハーモニー管弦楽団、群馬交響楽団、NHK交響楽団、読売日本交響楽団、東京都交響楽団、東京交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団、日本フィルハーモニー交響楽団、新日本フィルハーモニー交響楽団、東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団、神奈川フィルハーモニー管弦楽団、名古屋フィルハーモニー交響楽団、セントラル愛知交響楽団、オーケストラ・アンサンブル金沢、京都市交響楽団、大阪フィルハーモニー交響楽団、日本センチュリー交響楽団、大阪交響楽団、広島交響楽団、九州交響楽団と共演している。2015年より、セントラル愛知交響楽団の指揮者に就任。2016年、セントラル愛知交響楽団第145回定期演奏会(シベリウス&山田耕筰作品)が高く評価され、「第11回名古屋ペンクラブ音楽賞」を受賞。2019年4月より、セントラル愛知交響楽団常任指揮者に就任。仙台フィルハーモニー管弦楽団においても指揮者のポジションを務めており、いま日本で最も期待される若手指揮者の一人として活躍の場を拓いている。2020年「令和元年度愛知県芸術文化選奨文化新人賞」「名古屋市文化振興事業団第36回芸術創造賞」を受賞。

2021-2022シーズンのハイライトとしては、N響オーチャード定期「チャイコフスキー:交響曲第4番」、東京フィル「R.シュトラウス:ばらの騎士」、セントラル愛知との「ブラームス:交響曲第4番」「シューマン:交響曲第3番」「ラヴェル:マ・メーレル・ロワ」があげられる。

<http://kosuketsumoda.com>

セントラル愛知交響楽団 Central Aichi Symphony Orchestra

1983年ナゴヤシティ管弦楽団として発足。岩倉市との音楽文化普及事業委託契約による事業補助を受け1997年に現名称に改名。2009年一般社団法人となり、2021年4月に愛知県より認定を受け公益社団法人となる。2019年4月から常任指揮者に名古屋出身の角田鋼亮が就任。レオシュ・スワロフスキーを名誉音楽監督に、名誉指揮者小松長生、特別客演指揮者松尾葉子、首席客演指揮者齊藤一郎、正指揮者古谷誠一という布陣で新たなスタートを切る。2021年度はアソシエイトコンダクターとして阿部未来を迎える。定期演奏会、コンチェルトシリーズ、「第九」演奏会等の自主公演の他、バレエ、オペラ、ミュージカル等の依頼公演にも数多く出演。独自の構成によるプログラム、幅広いレパートリーを生かした学校公演、演奏者と聴衆の距離を縮めるような室内楽公演にも積極的に取り組み、年間約100回の公演はいずれも好評を博す。海外(2007年中国・2009年タイ・2017年韓国)でも公演し成功を収める。2015年半田市と音楽文化振興の協定、2019年一般財団法人稲沢市文化振興財団とも協定を締結。1996年「平成7年度愛知県芸術文化選奨文化賞」、2005年「平成16年度名古屋芸術奨励賞」、2007年「第2回名古屋音楽ペンクラブ賞」受賞。

Vol.3~6のご案内 (会場) 電気文化会館ザ・コンサートホール

指揮/角田鋼亮(当団常任指揮者)

Vol.3(2022年)

ヨハン・クリスチャン・バッハ:交響曲短調Op.6No.6
ハイドン:交響曲第97番ハ長調
ハイドン:交響曲第98番変ロ長調

Vol.5(2024年)

ボッケリーニ:交響曲二短調Op.37No.3
ハイドン:交響曲第101番二長調「時計」
ハイドン:交響曲第102番変ロ長調

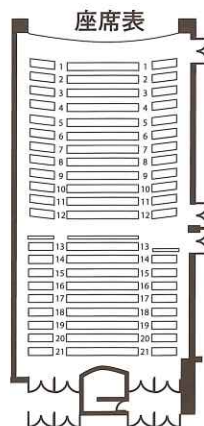
Vol.4(2023年)

ミハエル・ハイドン:交響曲39番ハ長調
ハイドン:交響曲第99番変ホ長調
ハイドン:交響曲第100番長調「軍隊」

Vol.6(2025年)

クラウス:交響曲ハ短調VB142
ハイドン:交響曲第103番変ホ長調「太鼓連打」
ハイドン:交響曲第104番二長調「ロンドン」

やむを得ない事情で演奏曲目・曲順が変更になる場合がございますのでご了承ください。



〈感染症対策ご協力のお願い〉

- チケット半券に来場者情報をご記入ください。会場内で感染者が出た場合、保健所等の指導のもとに情報を提供することがあります。ご了承ください。
- 発熱や体調不良の場合はご来場をお控えください。 ■ 会場内でのマスク着用・検温・手指消毒にご協力ください。 ■ 出演者への贈り物・面会のご遠慮ください。
- 前後左右の間隔をあけない配席となります。制限がかかる場合は振替席への移動をお願いする場合があります。

※2021年7月現在の対策です。変更となる場合があります。